



まなべ ようこ
真鍋陽子議員

インクルーシブ社会を構築するための環境整備について問う

質 様々な困難さと共に生きる方々が地域で暮らしていくツールとしてヘルプシールがある。本市で導入は可能か。

答 具体的な事業案をまとめる。

質 ①学校図書館にバリアフリーコーナーを作る。②学校図書館が国会図書館の承認館になる。③市立図書館で読み書き障害関連書籍コーナーを設ける等はできるか。

答 ①インクルーシブ教育を意識し環境整備に努める。②現在市内に国会図書館の承認館となっていない学校図書館はない。学校の実態に応じて承認館となるよう申請しサービスを活用する。③今後図書館内に常設でバリアフリーコーナーや展示コーナーを設置する。



不登校支援、オーガニック給食について問う

質 ①今ある施設、どこにも行けない不登校生徒の支援として子供の保護者に対する補助を行うことはできるか。②令和5年度におけるオーガニック給食の計画を尋ねる。③県は2030年までに有機農業の面積を300ヘクタールに拡大するとしている。市内耕作放棄地と有機農業希望者とのマッチングや専門の担当職員配置についての進捗を尋ねる。

答 ①現在、保護者に対する直接の補助は行っていない。②6月に行った。11月にも有機栽培された食材を使用する予定にしている。③耕作放棄地は解決していかなければならない問題。現在残念ながらできていない。先進地の情報を研究しながら今後導入について考えていきたい。



もりおか さとこ
森岡聡子議員

安心・安全なまちを目指して

質 「こどもまんなか社会」の実現に向けて、制度の拡充や子供の目線に立った支援が広がることとが期待されている。本市は具体的なビジョンをどのように考えているのか尋ねる。

答 全ての子育て家庭を支援し、育児の孤立化を防ぐことで、誰一人取り残さないという、子育てに優しいまちの実現を図る。国が新たに打ち出した、こども未来戦略にもある、全ての子供、子育て世帯を対象とする支援の拡充に向けて、あらゆる子育てサービスの向上、支援施策のさらなる充実を考えている。

質 産後ケア事業をどのように考えているのか。



答 安全・安心な妊娠、出産の確保のために、妊娠や分娩にしっかりと対応していただける専門的人材の配置を考えている。また、症状に緊急性がある場合や、夜間において分娩施設への移動手段が困難な妊婦に対しては救急車の利用についても検討している。

質 2025年問題の最大の課題である、労働力人口減少の取組について考えを尋ねる。

答 若くして就職された方々が早期に退職することを抑えるために、メンター制度（経験年数がある職員が若手の職員にアドバイスをする制度）、エルダー制度（若手の職員が経験のある職員と一緒に労働する制度）を推進し、人材育成を図る。